

平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【福岡県】

福岡県立福岡視覚特別支援学校

| | | | |
|---------------|---|----------------------------|--|
| 1 実践テーマ | 【 V 】 | | |
| 2 実施対象者 | 小学部児童 | | |
| 3 展開の形式 | (1) 学校における活動 ① 教科名 (体育) ② 行事名 (福岡県視覚障がい教育校総合体育大会) ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 () | | |
| 4 目標 (ねらい) | <ul style="list-style-type: none"> ・基本的なルールが分かり、「投げる（攻撃）」「とる（守備）」の技能を高めプレーさせることで、運動することの楽しさを味わわせる。 ・自分の能力を最大限に生かして自己課題に挑戦させる。 ・チームメイトと協力し、役割を果たさせる。 ・相手チームの選手を尊重する心を育成する。 | | |
| 5 取組内容 | (実施内容) 1 事前指導・計画 毎年行われる四盲体育大会のゴールボールの試合に向けて、1 学期から体育の学習の一環として、ゴールボール運動に取り組んだ。計画は以下の通りである。 | | |
| | 7月10日(月) | ラジオ体操 +サイドステップ(しゃがむ、ねる) | <ul style="list-style-type: none"> ・ルール説明、コート of 広さと配置の確認 ・キャッチの練習(体の正面でキャッチする) ・サーブの練習(下手で転がす) |
| | 14日(金) | ↓ | <ul style="list-style-type: none"> ・キャッチの練習(体の正面でキャッチする) ・サーブの練習(下手で転がす) ・ルールの説明 ・ゲーム |

| | | |
|---------|---------------------------|--|
| 9月4日(月) | ↓ | ※各自、サポーター、アイシェイドをあわせ、マスキングテープで名前をはる。 ・ルールの説明 ・キャッチの練習(体の正面でキャッチする) ・サーブの練習(下手で転がす) ・ゲーム ☆1グループ、2グループにわかれての練習 ☆個別練習 |
| 8日(金) | | |
| 11日(月) | | |
| 15日(金) | | |
| 22日(金) | | |
| 25日(月) | 音競走(2組と合同) | |
| 29日(金) | 福岡県 視覚障がい教育校 総合体育大会 | |

2 ゴールボール運動の実際

① ゴールボールの紹介・ルール、マナーの確認

練習に入る前にゲームのルールを知ること、具体的な動き、自分の役割、練習方法などをとらえさせ、見通しも持たせた活動につなげた。

ゴールボールのルール・マナー

※コートに入る前に、各自、サポーターとアイシェイドをつける。

※ボールは音サッカーボール使用

●試合開始

① チームごとにセンターラインに並びあいさつ、握手をする。

(並び方はチームごとに決めておく。)

② 試合開始の前に、キャプテンがじゃんけんをして、先行を決める。

③ 定位置についたら、場所(位置)と選手名を紹介する。

④ 全員アイシェイドをする。

⑤ 笛(1回)の合図でボールを投げる。右奥1→左奥2→トップ3の順番で、下手投げで転がす。

審判: キャッチとゴール時は、声で知らせる。サイドアウトは笛2回

ボールをとめる時は体のどこを使ってもよい。

声や音を出して妨害しない。

途中で交代する場合は、審判に申し出る。

⑥ 試合の最後はセンターラインに並び、結果をきく。勝敗を喜び合う。

あいさつ、握手をする。

●待機場所にもどり、チームごとに座って応援する。

② ゴールボールを楽しむための練習

投球練習(投げ方、方向のとらえ方、コントロール、力加減の調整の仕方)、守備練習(ボールの進行方向のとらえ方、守りの体勢のとり方、キャッチの仕方)の基礎練習後、チームごとに作戦タイムの場を設定し、ポジションやサーブの順番を決めさせたりすることでチーム

意識を高めた。

- ③ ゴールボール大会（福岡県視覚障がい教育校総合体育大会）
県内の視覚特別支援学校（北九州、柳河、福岡）の混合チームによる対戦
ルールやマナー、選手交代については、他校の職員と打ち合わせ共通確認を行った。
ゲームの前の昼休みに各チームごとに顔合わせを行い、話し合いを実施後、練習とゲームにつなげた。



6 主な成果

- （成果）
- 児童一人ひとりの実態を考慮してルールや投球距離を設定したことで、全員が楽しく達成感のある活動となった。
 - 基礎練習やゲームを積み重ねるごとに上達し、自信をもって取り組むことができるようになった。
 - チームごとの作戦タイムの設定や、声かけの場を多く持つことで、友達のがんばりを知った。また、協力して取り組ませることで、一緒に喜んだり悔しがったりして運動を楽しむことができた。
 - 今回の取り組みを通して、他の障がい者スポーツや運動に興味関心を高めさせることができた。

7実践において工夫した点 （事業の 特色）

- （実践上の工夫点、留意点等）
- ・ 楽しく活動できるように、楽しい雰囲気作りを心掛けた。
 - ・ 個々の実態に応じてルールを設定したり投球距離を設定したりした。
 - ・ 児童の視覚障がいに配慮し、床にラインテープを貼って足で方向を確認できるようにしたり、児童に向かって声を掛けたり、手を叩いたりして転がす方向や距離感が分かるようにした。

| | |
|--------------|--|
| | <ul style="list-style-type: none"> • 仲間意識を高めることができるようにゲームはチーム戦で行うようにし、投球順や戦術を話し合ったり、チーム毎に練習したりする時間を設けた。 |
| 8 主な課題等 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 子どもたちの興味関心を広げるために様々なスポーツの紹介と体験 ○ 日常的に運動に親しむ時間の確保 ○ スポーツを通じた成功体験の積み上げ ○ 専門性の高い指導者の確保 |
| 9 来年度以降の実施予定 | <p>体育の授業、福岡県視覚障がい教育校総合体育大会</p> |